

東京サレジオ学園

TOKYO SALESIAN BOYS' HOME

所在地／東京都小平市上水南町4-7-1

建築主／社会福祉法人 東京サレジオ学園

設計者／株式会社 坂倉建築研究所

施工者／戸田建設株式会社

日本国土開発株式会社

竣工／1988年9月30日

Location／Kodaira City, Tokyo

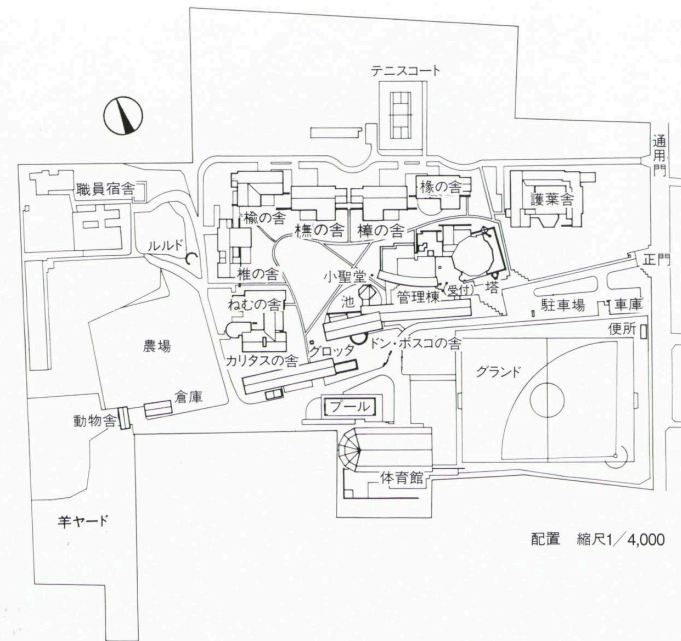
Owner／Tokyo Salesian Boys' Home

Architect／Sakakura Associates, Architects and Engineers

Contractors／Toda Corporation

Japan Development and Construction Co., Ltd.

Completion Date／September, 1988



空撮 Aerial view.



全景 General view.

ドン・ボスコ記念聖堂 Don Bosco commemorative chapel



南側外観 View of the south side.

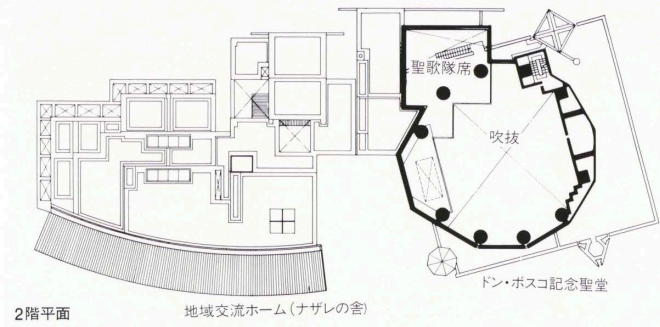


聖堂内部 Chapel.

譲葉舎 Yuzurihano-ie

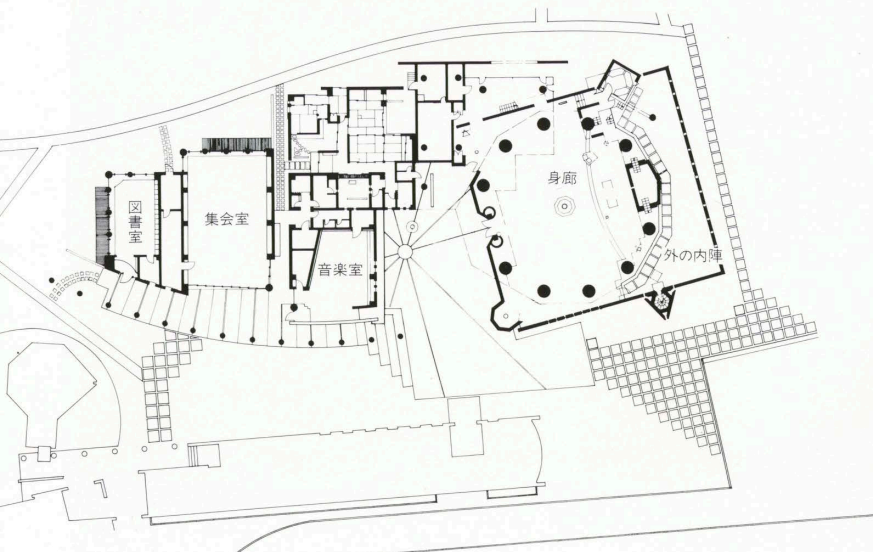


中庭 Court.

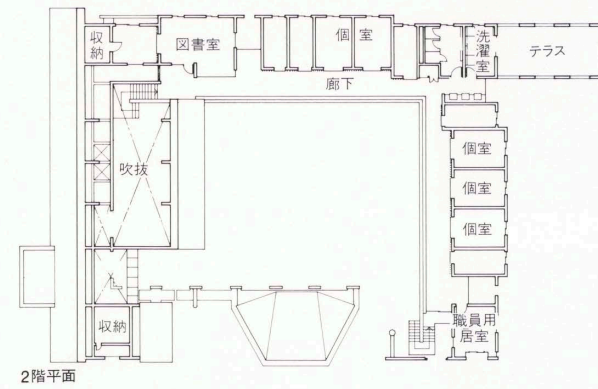


2階平面

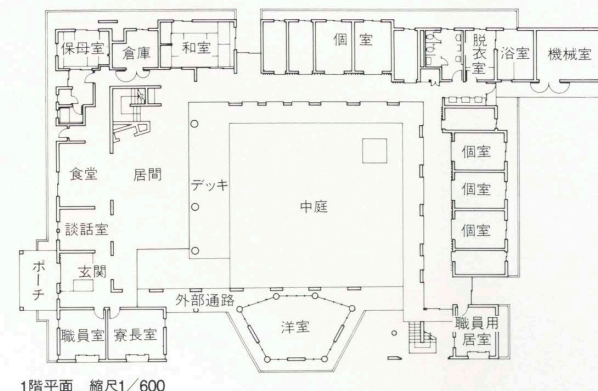
地域交流ホーム(ナザレの舎)



配置・1階平面 縮尺1/800



2階平面



1階平面 縮尺1/600



音楽室(洋室) Music room.



居間 Living room.



ねむの舎のテラス Terrace of the nemuno-ye.



食堂・居間 Dining and living room.



居室 Private room.

建築概要

敷地面積	64,630.88㎡(全体)
建築面積	[ドン・ボスコ記念聖堂] 494.61㎡
	[地域交流ホーム] 576.65㎡
	[譲葉舎] 634.75㎡
	[小・中学生園舎] 3,163.34㎡
延床面積	[ドン・ボスコ記念聖堂] 575.27㎡
	[地域交流ホーム] 440.73㎡
	[譲葉舎] 875.00㎡
	[小・中学生園舎] 4,165.30㎡
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上2階
工期	[ドン・ボスコ記念聖堂・地域交流ホーム] 1987年10月～1988年9月
	[譲葉舎] 1985年9月～1986年3月
	[小・中学生園舎] 1986年9月～1987年3月

仕上げ概要

外部仕上げ

屋根/[ドン・ボスコ記念聖堂] アスファルト防水コンクリート押え [地域交流ホーム・譲葉舎・小・中学生園舎] 洋瓦葺き 外壁/コンクリート打放し耐候性無機質塗料塗り

内部仕上げ

[ドン・ボスコ記念聖堂] 床/大理石 壁/コンクリート打放し耐候性無機質塗料塗り,うろこ瓦張り,ナラ合板ワコ油拭き [地域交流ホーム] 床/カーペット敷き,木レンガ(ケヤキ)敷き,フロリング張り 壁/しっくい塗り,コンクリートブロック化粧積み,有孔ラワンベニアOSCL 天井/しっくい塗り,コンクリート打放し耐候性無機質塗料塗り,有孔ラワンベニアOSCL [譲葉舎] 床/モザイクパーケット張り 壁/コンクリート打放しEP,石膏ボード張り継目処理EP 天井/木毛セメント板打込みEP,岩綿吸音板張りEP [小・中学生園舎] 床/モザイクパーケット張り 壁/コンクリート打放しEP,石膏ボード張り継目処理EP 天井/岩綿吸音板張りEP,ラワンベニアOSCL

設備概要

空調 方式/[ドン・ボスコ記念聖堂] 床暖房 [地域交流ホーム] ヒートポンプ式エアコン [譲葉舎] 床暖房,温水温房,一部冷暖房 [小・中学生園舎] 温水温房,一部暖房および冷暖房 熱源/[ドン・ボスコ記念聖堂] 都市ガス [地域交流ホーム] 電気 衛生 給水/井戸 給湯/ガス湯沸器および電気温水器 排水/合流式 防災 消火/消火器 排煙/自然排煙

選評 REVIEW

武蔵野の面影いっぱいの広々とした敷地で、東京学芸大を南にひかえたところに、戦後すぐから浮浪児をはじめとして親や家庭の愛に恵まれない子供たちに、安住の環境をつくり出すことにつとめた成果が、みごとに花開いたのである。

戦災孤児を収容して養育することから始められた社会福祉施設であり、G.H.Q. 管理の旧陸軍用地を譲り受けて始められたものであるが、食糧の自給から始まっているので、広い畑や牧場などのスペースの提供もあって、のびのびした環境が、あずかって力があったことは否めない。

サレジオ学園がこの地に誕生したのは、昭和22年5月のことであるが、サレジオ修道会の創立者ドン・ボスコという北イタリアのカトリックの司祭から始まっている由である。

「譲葉舎」「ねむの舎」「椎の舎」「樵の舎」「楡の舎」「橡の舎」「樟の舎」の七つの家々がつくられ、そこで「ドン・ボスコ記念聖堂」がつくられることになった。

全体のプログラムやマスタープランがどこまでまとまっていたのかどうかは知らない。しかし関係者全体の学園への理念が、きちんとまとめられて行ったことは当然としても、ここへ来て、職員の皆さんにお会いして、一つ一つの言葉の中に「家」に対する意識、「村」に対する感覚、そしてそれらは全て暖かいぬくもりから始まっていた。

その中心に聖堂がつくられることになった。幾何学的十二角形の平面、大空間で、石やガラスやブロンズで組み立てられていて、彫刻家、工芸家、家具デザイナーなど多くの芸術家の参加を得て、聖堂は完成した。

こうして子供たちの家は出来上がったが、この家は手造り意欲いっぱいであり、打放し鉄筋コンクリート仕上げで、複雑で緻密なディテールが要求されるものである。

密度高い仕事を子供たちへの愛情をこめてやさしくねりあげられた建築に対して、村上園長先生やシスター先生をはじめとして、学園の皆さま、設計者、施工者の皆さんに、よい作品を見せていただいたことだけでも、いっぱいのお礼を申し上げます。

嶋田勝次 KATSUJI SHIMADA

松村慶三 KEIZO MATSUMURA

舟橋 巖 IWAO FUNABASHI

This organization, which is operated by the Society of Saint Francis of Sales, formed in Turin, Italy, in 1845, by a certain Father Don Bosco, began giving orphans and other children deprived of parental love and home a safe residential environment in the days immediately after World War II. Now, in this new campus on a site in the Tokyo suburbs where traces of the romantic old rural Musashino district survive, its efforts have come to splendid fruition.

In its early days, the Salesian School was granted land that had formerly been used by the army but was then under the supervision of the General Headquarters of the Allied Occupation. This land, which was spacious enough to raise food and cattle, was undeniably a big advantage. In May, 1947, the Tokyo Salesian School came into being on this land.

The new campus includes the Don Bosco Commemorative Chapel plus seven children's houses, all named for trees. Though perhaps indifferent to design and master planning, everyone who works there speaks of the houses and the campus in the warmest terms as "our home and our village."

The chapel, which stands in the center of the plan, has a twelve-sided (dodecahedral) plan. Stone, glass, and bronze combine in the creation of its large space, in the completion of which many artists, craftsmen, and designers participated.

The children's houses required complicated, delicate detailing in the finishing of the exposed reinforced concrete to give them the required handwork feeling. The director of the school, the nuns and all staff members plus the designer and contractor deserve great praise for producing meticulously thought-out architecture filled with affection for the children who live in it.